



※ □内は、ロットNo.表示位置を示します。

■施工される方へのお願い

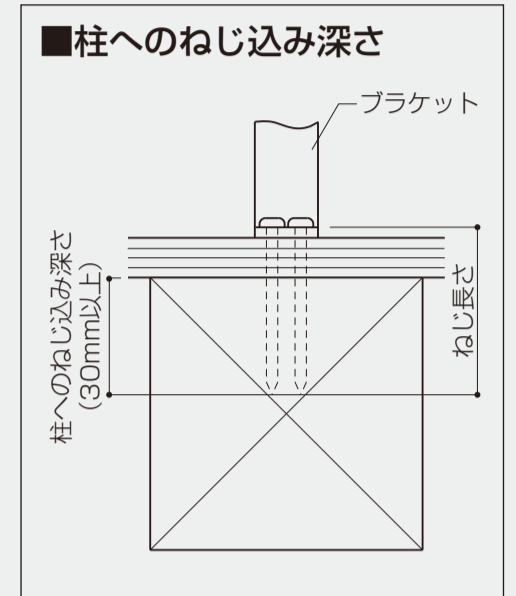
▲警告 …取付けを誤った場合に、使用者が死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲警告

●手すりの落下・転落防止のため、下記事項を厳守してください。

- 当製品は木造躯体専用です。ALC・RC等の躯体には使用しないでください。
- 発泡材を使用した(充てん又は張合わせ等)金属サイディングの外壁には後付けしないでください。
- 取付け前に必ず、柱・間柱・窓台の位置・寸法、外壁材・下地材の厚さを建築図面で確認してください。
- サイディング通気工法の場合、取付け位置に胴縁があることを確認してください。
- ブラケットは必ず柱に、指定のねじで取り付けてください。柱のない部分には取り付けしないでください。
- 柱へのねじ込み深さは30mm以上確保してください。
- 壁厚が30mm以上の場合は、厚壁用のねじを使用してください。
- 強度・防錆性を保つため、必ず指定のブラケット・ブラケット台座・ねじ類を、指定の数量使用してください。
- 外壁のバカ穴は、柱まであけないでください。
- 手すりにのったり足をかけたりしないでください。また、重いものをのせないでください。
- サイドガードは必ず取り付けてください。
- 躯体に下穴をあける場合は、ねじの外れ防止のため、φ5のねじにはφ3.5、φ4のねじにはφ3のドリルを使用してください。
- 手すり取付け後、笠木をゆすってガタツキのないことを確認してください。
- 雨戸サッシの種類によって手すりの出幅が異なるため、ブラケットとポール締付け金具の固定は必ず指定の位置を使用してください。



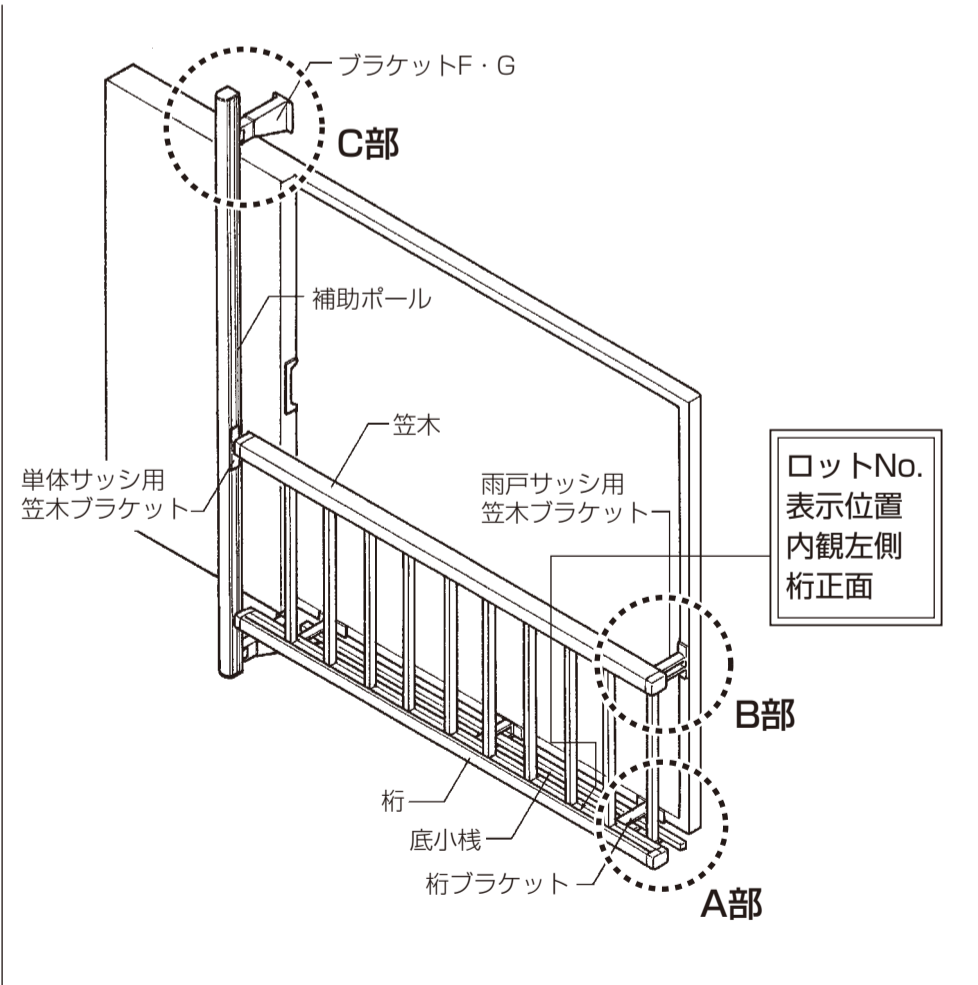
▲注意

- ねじ部からの漏水防止のため、躯体の下穴には必ずコーキング材を充てんしてください。
- 補助ポールの裏板は刻印(上)を上にして取り付けてください。逆に取り付けると取付けねじが2本しか止まらず、商品落下の原因になるおそれがあります。

■適用機種と部品箱の確認

- | | | | | |
|-----------------------------|--------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| ●鏡面なし戸袋を使用している場合 | ●補助ポールの長さは3種類あります。 | } を使用します。 | ●手すりを連結する場合の部品箱は、 | } を使用します。 |
| ●連窓用戸袋を使用している場合 | ●部品箱は、 | | | |
| ●鏡板付き戸袋のテラス2枚建て用戸袋を使用している場合 | ホワイト用=HCJWA03 | ブラック用=HCJBA03 | ブラック用=HCJBA04 | オートムブラウン用=HCJBA04 |
| | オートムブラウン用=HCJBA03 | シャイングレー用=HCJKA03 | シャイングレー用=HCJKA04 | |

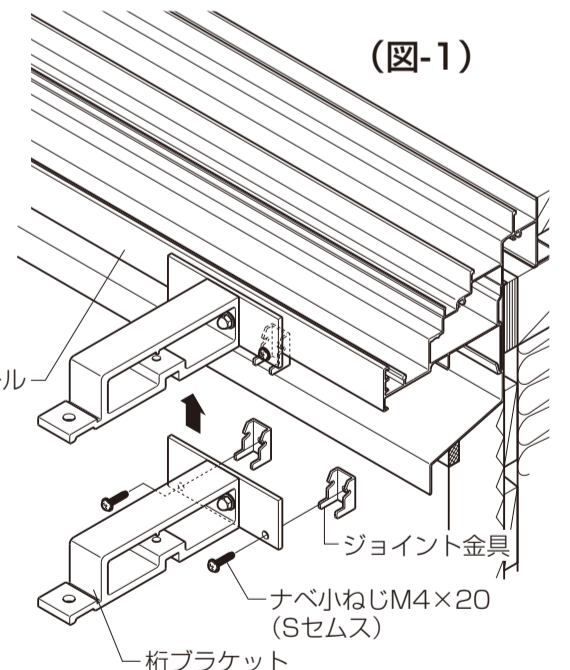
■各部名称図



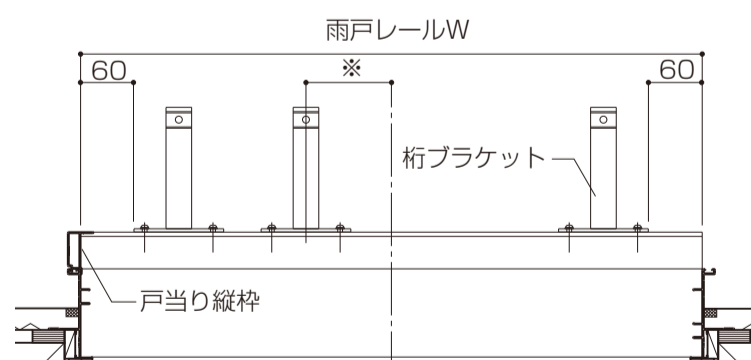
■取付け順序

1 桁ブラケットの取付け(A部)

- ①桁ブラケットにジョイント金具をナベ小ねじ(M4×20・Sセムス)で仮固定します。(図-1)
 - ②桁ブラケット取付け位置図(図-2)により、雨戸レールに桁ブラケットの取付け位置を決めます。次に、桁ブラケットの取付け位置を決めます。次に、桁ブラケットのジョイント金具部を雨戸レールに引っ掛けて本固定します。(図-1)
- ※左・右のブラケットは、雨戸レールの端から60mmの位置に取り付けます。(図-2)
- ※中間のブラケットは、雨戸の建込み及び取外しが容易にできる位置に取り付けてください。中心に取付けが出来ない場合には、戸当り側へ寄せてください。(図-2)

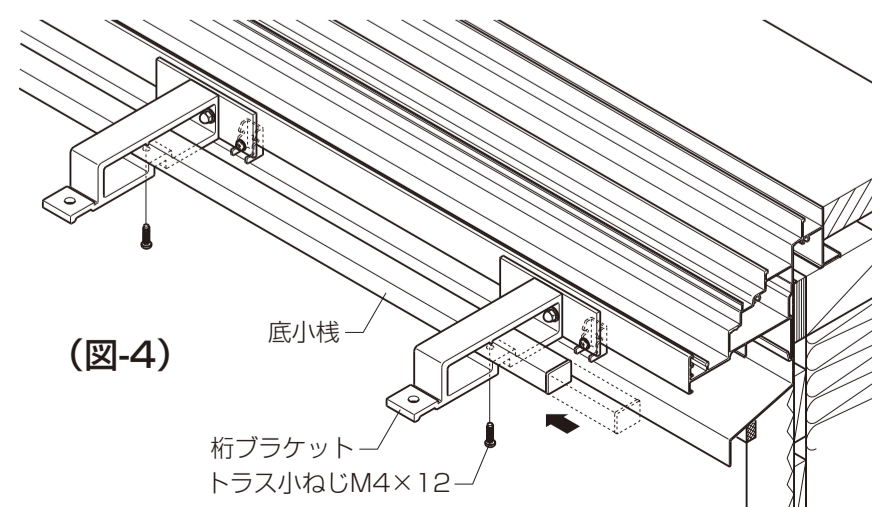
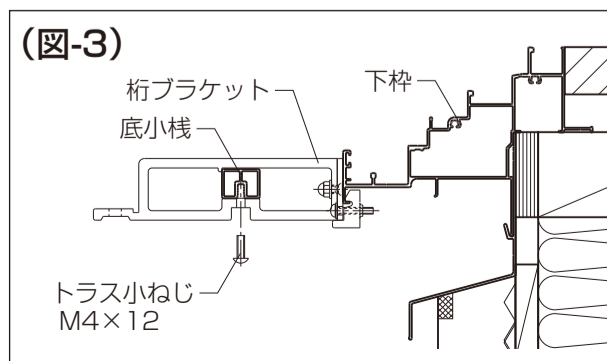


【桁ブラケットの取付け位置図】(図-2)



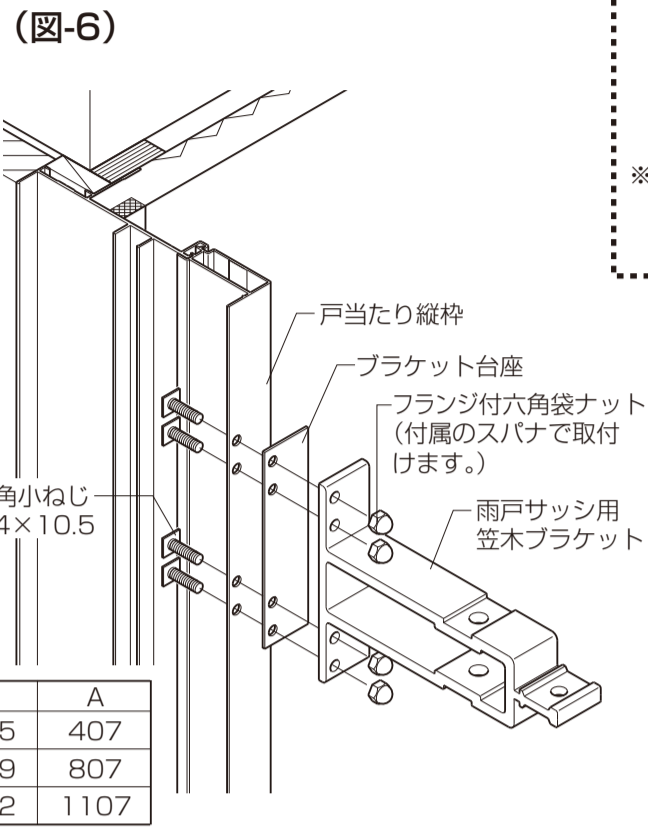
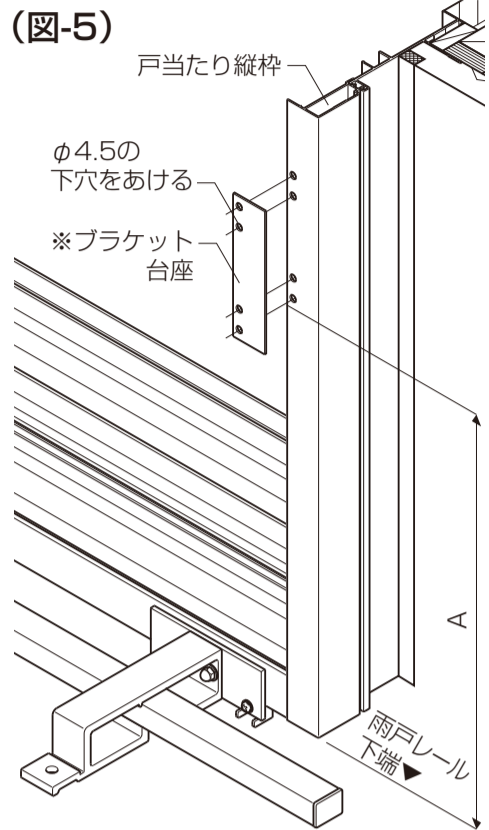
2 底小棧の取付け(A部)

- 底小棧を桁ブラケットに通し、トラス小ねじ(M4×12)でねじ止めます。(図-3、図-4)



3 雨戸サッシ用笠木ブラケットの取付け(B部)

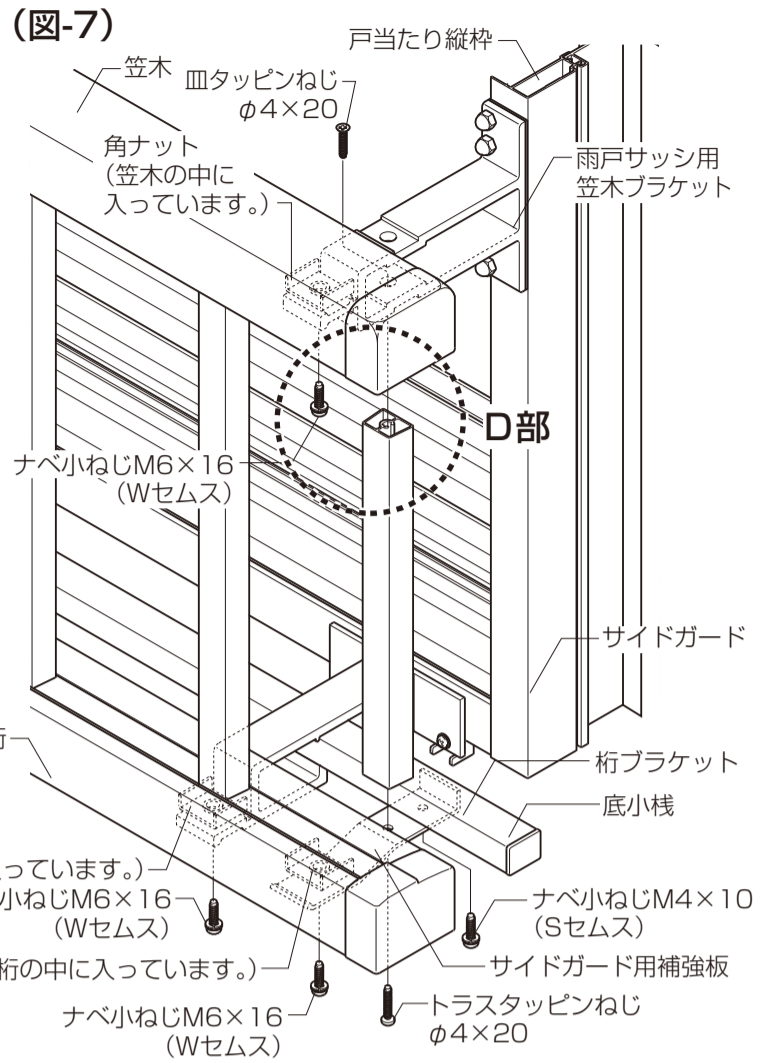
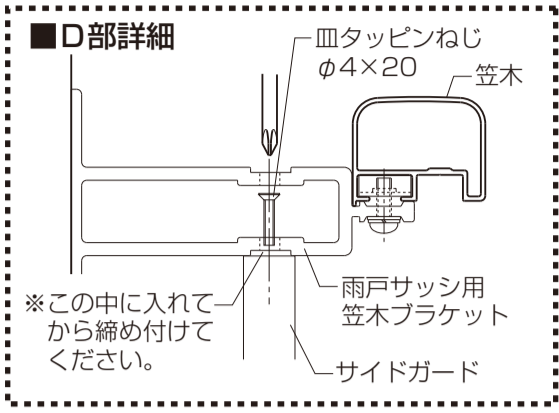
- ①戸当たり縦枠にブラケット台座の取付け位置を出し、φ4.5mmのドリルで下穴をあけます。(図-5)
※CXの場合は、はみ出した台座は切り取ってください。
- ②戸当たり縦枠に、雨戸サッシ用笠木ブラケットを、四角小ねじ・フランジ付六角袋ナットで固定します。(図-6)



H呼称	A
1.7R 05	407
3.0R 09	807
- 12	1107

4 手すり本体の取付け(A・B部)

- 手すり本体を開口部に当て、笠木及び桁を仮止めします。(図-7)



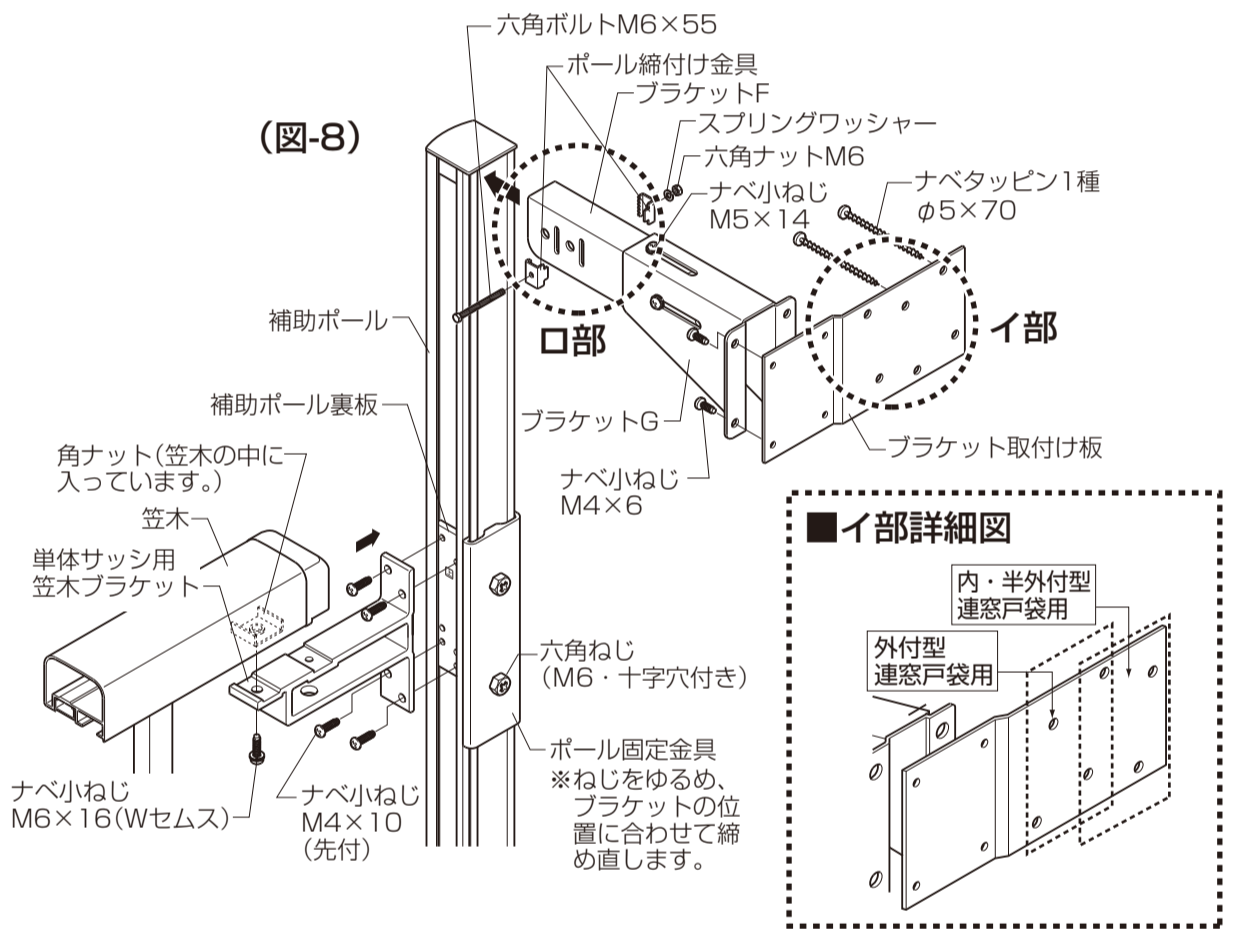
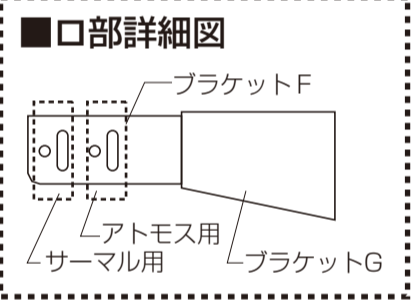
5 補助ポールの取付け(C部)

- ①ブラケットF及びGを補助ポールに取り付け、躯体にねじで固定します。(図-8)
※ブラケットGが柱の位置に取り付けられない場合は、ブラケット取付け板を使用してください。
※ブラケットFとポール締付け金具の固定位置を確認してください。(口部詳細図参照)

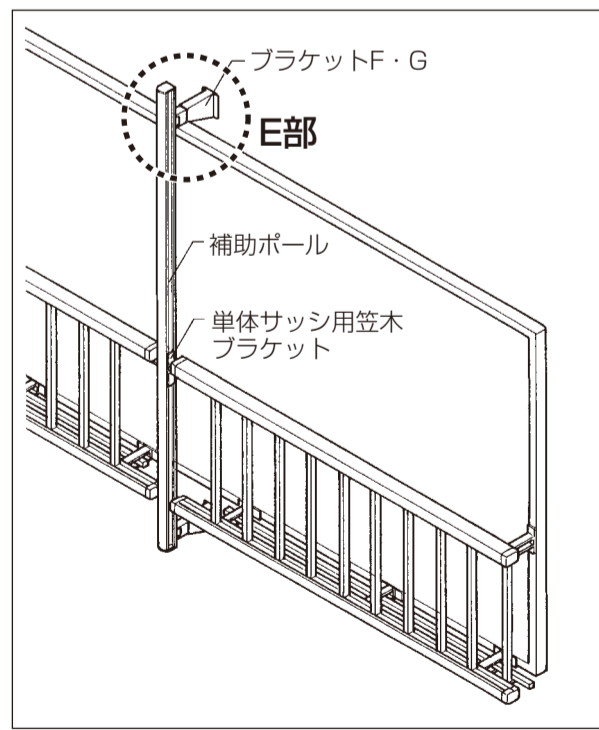
警告

●ブラケット取付け板は、必ず柱等の躯体に取り付けてください。外壁だけの取付けは、手すりが落下するおそれがあります。

- 外付型連窓戸袋と内・半外付型連窓戸袋とでは、固定する穴の位置が異なります。(図-8)の(イ部詳細図)を参照してください。
- ②補助ポールにあらかじめ差し込んである裏板に、単体サッシ用笠木ブラケットを固定します。
- ③補助ポールに取り付けた単体サッシ用笠木ブラケットに笠木を固定します。
※手すりを連結させる場合は、補助ポールの連結する側の溝に付属の裏板を差し込み、単体サッシ用笠木ブラケットを固定してください。
- ④最後に笠木・桁をブラケットに本固定します。



■手すりを連結する場合の取付け方法



- ①ブラケットF及びGを補助ポールに取り付け、ブラケットGを躯体に固定します。
※ブラケットF,Gの固定場所は、あらかじめ躯体を補強しておいてください。(E部詳細図)
※間柱のみでは、取り付けることができませんのでご注意ください。
※ブラケットFとポール締付け金具の固定位置を確認してください。(口部詳細図参照)
- 補助ポール裏板を使い単体サッシ用笠木ブラケットを固定します。
- 笠木を単体サッシ用ブラケットに固定します。

